

美術科教育学会通信

◆1992年 8月 5日発行： 美術科教育学会本部事務局
〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 美術教室内
TEL. 0566-36-3111 (内線) 610 FAX. 0566-36-4338

NO. 7

第14回美術科教育学会・静岡大会報告

1992年の3月26日(木)～28日(土)の3日間、静岡大学にて第14回美術科教育学会が開かれ、47件の研究発表と200人を超える参加者がありました。個々の研究発表はもとより、山中康裕氏(臨床心理学)の講演『臨床心理学から子供の造形活動を見る』も多数の参加者を得て熱気にあふれていました。また、シンポジウム『博士論文：課題と展望』では、筑波大学(赤木里香子氏)、東京芸術大学(金田卓也氏)、米国ペンシルヴェニア州立大学(長町充家氏)で美術教育関連の論文によって博士の学位を取得された3名の会員から、論文の作成や学位取得の手続き等に関する体験的報告がなされました。若手を中心とする会員に大きな刺激を与える企画でした。

なお、研究発表については『アートエデュケーション』誌(建帛社)の第14号(92年7月刊)に個々の題目が紹介されています。また、博士論文シンポジウムについては同誌の第15号(92年10月刊行予定)で、その概要が紹介される予定です。ご覧下さい。

今大会は、会場となった静岡大学の寺沢先生、木村先生、そして会の運営の主力となって活躍された静岡大学の学生諸君の見事なチームワークが強く印象に残るものでした。

以下に、総会の報告をいたします。

1. 新理事の承認と代表理事の選出について

代表理事	宮 脇 理 氏 (筑波大学)
副代表理事	石 川 毅 氏 (宇都宮大)
	花 篤 実 氏 (大阪教育大学)

既に『通信6』でお知らせしました選出理事(30名)が、総会にて承認されました。任期は、1995年3月までの3年間となります。総会承認後の最初の新役員会議(22名出席)で、会則(第三章・第10条1)により、理事相互の互選(投票)の結果、代表理事に宮脇理氏、副代表理事に石川毅氏と花篤実氏が選ばれました。また会則(第三章・第10条3)により、監事を橋本泰幸氏と長谷川哲哉氏の2名に委嘱することが決まりました。本来、代表理事と監事の決定は総会の承認を必要とする事項ですが、初めての選出理事の承認ということで新しい理事会は総会の承認後にしか開けないという事情もあり、総会では、新理事と新理事会での代表理事の選出・監事の委嘱も含めて承認していただきましたので、ここに報告いたします。前代表理事の鈴木寛男氏と新代表理事の宮脇理氏からメッセージをいただきましたのでご覧下さい。(→3頁)

第15回学会大会案内を同封してあります

2. 会計報告と年会費の値上げ

1993年度分(93年1月～12月)から年会費の値上げ
来年度分より年会費を6,000円(現行:4,000円)にすることが承認されました。
それに伴い細則の一部を次のように改正しました。(改正92.3.28、施行93.1.1)

細則	第三章第8条：会員の会費は、年間つぎのとおりとする。	
(旧)	正会員 4,000円	賛助会員 一口 10,000円
(新)	正会員 6,000円	賛助会員 一口 20,000円

1990年6月に大阪教育大学から愛知教育大学に本部事務局が引き継がれました。その間、学生会員の廃止、会計年度や会費納入方法の変更など学会財政の基本にかかわる変更があり、また91年度からは、本部事務局会計と大会開催事務局会計の一本化になり、変則的な状況が続いています。会計報告の詳細(本部事務局会計と開催事務局会計)については総会で説明しましたが、92年2月の時点で、91年度までの会費の納入状況は次のようになっています。

89年度分(89.4～90.3)―240名納入済 [正会員 5,000円、学生会員 2,000円]

90 " (90.4～90.12)―209名 " [移行 3,000円、新規 4,000円]

91 " (91.1～91.12)―202名 " [一律 4,000円]

90年以後の会費納入の減少は、会費納入を郵便振込に一本化し、大会会場で受け付けなかったことにあるかと思われます。92年の静岡大会では会場で年会費の納入受け付けをし、既に多数納入していただきました。今後、きちんと予算・決算のシステムを確立するためには、会費未納者に細則・第三章・第10条「2年間、会費納入義務を履行しないものは退会したものと認める」を適用する必要があります。約130名程がこの適用の対象になります。今後は、学会誌の充実と論文掲載料の軽減、会員の研究活動への補助、「通信」の定期発行と印刷所での印刷、理事会や編集委員会の運営の定例化と予算措置、関連する研究会や諸行事への補助、その他事務局運営費等をきちんと予算化することなど多様な課題をこなしていかなければなりません。学術会議の登録団体となったことで、社会的にも本学会に対する要求は増大しています。今までの予算規模ではそれらに対応する活動はできません。150～200万円程度の年間収入が必要です。今後、上の細則を適用して300人程の会員になった場合でも、300人×6,000円で180万円になります。そこで、1993年度分(93.1～93.12)より、年会費を6,000円にすることを提案し、承認されました。92年度分(92.1～92.12)は従来通り4,000円です。併せて、賛助会員の会費も一口：1万円から2万円に改定され、会員の皆様に賛助会員の開始をお願いいたしました。

3. 次期学会開催大学は京都教育大学に決まる

次期学会開催大学として京都教育大学が承認され、京都教育大学の竹内博教授より開催受諾のご挨拶をいただきました。詳細は同封の第1次案内をご覧ください。

4. その他、報告事項など

・学会誌編集委員会より：学会誌第13号(会員へ発送済)は、500部印刷、各執筆者に抜刷50部、発送用封筒500枚で合計135万円の支出、論文掲載料は各執筆者とも10頁まで3万円で、合計101万円の収入があった旨、報告されました。

・研究例会の活動：全国大会以外にも会員同志のグループによる自主的な研究会活動の支援・補助にむけての提案がなされ、今後の検討課題となった。

昨年の総会で、理事選挙のための委員会が発足し、事務局のなみなみならぬご尽力により、念願でありました選挙を実施することができました。続いて代表・副代表理事の役員も理事の互選によって立派に選出されました。このことは、以前より申し上げておりました如く、学会がやっと組織的な基盤を整備したことであり、将来の発展・充実に大きな第一歩を進めたこととして高い意義をもつものと思います。私は、年齢と創立にかかわったという理由で、その間の準備役として、責任者を務めさせて頂きました。学会の発足以来、数々の困難を克服して今日のような学会に成長しましたのは役員・事務局のバックアップは勿論、全国にわたる多くの会員の方々のご協力とご芳情のたまものと厚くお礼を申し上げます。

代表辞任にあたり、15年前の発足当時のことを一筆添えます。当時の教育学部の教科教育に対する指導態勢の低調ぶりは、驚くものでした。「教材研究」に絵の自由課題を提出することで済ましていたというような一例をあげるまでもなく、とにかくひどい状況でした。70年代、文部省の教科指導担当者の増配ということがありました。たまたま教科教育を担当することになった私は、東京都の高校の現場で美術教育のため研鑽しあっていた大勝恵一郎氏（ちょうどこの頃に同じく教育学部に転任された）とともにほかって教科教育を考える研究会を創立することにいたしました。1979年の3月、第一回の研究会が奈良教育大学でひらかれました。今でも、その時のことを思い出すと感無量のものがあります。

学会をもり上げてくれた院生を中心とする若い研究者のパワーのことなど多くを述べる紙面がすでにありません。この学会が、新しい組織のもとで益々発展することを切に願って、一言、お礼の挨拶といたします。ありがとうございました。

学会の充実を願って

学会代表理事 宮脇 理

本年3月28日の新理事会において、当学会の代表理事をお引き受けいたすことになりました。

10年余の歴史を迎えた当学会が第15期日本学術会議の学術研究団体として登録され、また400人に及ぶ学会会員を擁するまでになりましたのも、鈴木寛男前学会代表理事が学会設立の理念を掲げ、これに賛同し、協力された会員皆様のご尽力の結果であったと思われまします。想えば、若い方々の研究の場を確保し、当学会がかかえる研究領野の展望を拓かれた鈴木先生の方向はまさに卓見でありました。事実、多くの若手研究者が当学会において発表し、これを発条(びん)として斯界の研究と教育に精密な努力をつづけ、優れた結果を生みつつあることは何よりの証左であると思われまします。

さて、昨年は当学会の理事選挙を事務局ならびに選出された理事の献身的なご努力によって終え、3月末には新しい理事会が発足いたしました。会員による理事選出という学会組織の構成がなされたということは、学会が次の段階に入ったことを意味することになります。しかし本学会が超えるべき課題や問題は限りなくあります。掲げる理念と現実の運営との函数関係がどれほど困難であるかは予想されるところではありますが、単なる次善の追求に終わることのない方向を持ちたいと思っております。幸い副代表理事として花篤、石川の両氏が参画され、加えて行動的な事務局の運営により会員相互との密接なネットワークが生まれ、学会の啓蒙期を更に超えて充実することを期待しております。(1992.7)

♡ 新入会員（92年7月までに入会申込書が届いた方）

青木 道雄（福岡・福岡教育大・非常勤）	宇野 義行（東京・都立淵江高校）
勝野 浩一（ " " ）	草尾 和之（大阪・府立玉川高校）
佐々木 敏（福岡・九州芸工大・非常勤）	佐藤 徹（東京・東京学芸大・院）
荘 正徳（新潟・上越教育大・院）	長井 麻美（東京・聖心学院小）
長谷川 泰弘（茨城・茨城大附属中）	林 知子（茨城・水海道市立西中）
峯 幸子（徳島・四国大・非常勤）	森本 昭宏（埼玉・武蔵野短大）
安田 祐造（埼玉・県立川口青陵高校）	山田 芳明（大阪・大教大附属平野小）
吉田 敦彦（東京・都立村山高校）	—— 以上、15名（50音順）

会費納入に関するお知らせ

個々の会員の会費納入状況は、封筒の宛て名タックシールの最下行の【 】内に示してあります。89,90等の数字は会費が未納の年度（西暦）です。前回までは、納入済の年度を示していましたが、誤解される方が多く、今回から未納年度を示すことにしましたので御注意下さい。89年度は学生会員(2,000円)と正会員(5,000円)の区別がありました。

宛て名【 】内の数字の意味	(今年度までの未納分合計金額)
【89,90,91,92,一☆】	-- 89年度より未納 — 正会員 (16,000円) 学生 (13,000円)
【90,91,92,一☆】	-- 90年度より未納 --- 正会員 (11,000円) 学生会員は廃止
【91,92,一】	-- 91年度より未納 — 正会員 (8,000円)
【92,一】	-- 92年度分のみ未納 — 正会員 (4,000円)
【92済】	-- 92年度分納入済 — 正会員 (0円)

90年度以前(90年も含む)の会費が未納の会員(☆印)が約130名ありますが、細則・第三章・第10条の規程により、今年度(92年12月まで)内に会費納入が無い場合は、退会されたものとしします。今後、研究発表のために再入会される場合は、その間の未納分会費を全額納入していただきます。ただし、その間、学会誌や「通信」等の送付をいたしませんのでご了承下さい。できる限り継続していただくようお願いします。振込は同封の振込用紙を御使用下さい。その際、〇〇年度分と記入されるのをお忘れなく。

年会費郵便振込先 (口座番号) 名古屋 4-7814

(加入者名) 美術科教育学会本部事務局

◆ 学会へ寄贈された図書をご紹介します。

- 石川 毅著『芸術教育学への道』勁草書房 1992 (定価 2,060円)
 金田 卓也(絵と文)『アブドルの冒険』偕成社 1989 (定価 1,090円) — 他2冊
 Takuya KANEDA; Romila's Dream: The Story of Himalayan Girl. Kaiseisha, 1982

訂正とお詫び

『通信 6』の「理事選挙開票立会人」の報告(p.2)の一部を次のように訂正します。
 「無効4票(締切日を過ぎているもの3、7名以上に○をつけたもの1)」の下線の部分を「7名を越える氏名に○印を付したもの」(立会人の報告書原文)にします。
 「7名以上」は「7名を含む」ので表現として不適切だったこととお詫びします。